



ソフトウェアプロセス改善カンファレンス2021

SPI Japan 2021

オンライン
開催

「いかす」—新たな時代に“カイゼン”の力を—

日時 2021年10月6日(水)~8日(金)

主催 日本SPIコンソーシアム(JASPIC)

後援 独立行政法人 情報処理推進機構(IPA) /
ソフトウェア技術者協会(SEA) /
日本SPICEネットワーク /
一般財団法人 日本科学技術連盟(JUSE) /
一般社団法人 PMI日本支部 /
派生開発推進協議会(AFFORDD) /
Agile Japan

SPI Japan 2021 開催にあたって

今日、ソフトウェアが中核となる社会・産業システムを支えるインフラとしての役割を担うだけでなく、さまざまな工業製品の高機能化を推進するキーファクターとしてその重要性がますます高まっています。さらに先進技術の進歩を背景に、IoT 技術が社会・産業に浸透しつつあり、製品／サービスの開発を取り巻くあらゆる業界に広がりを見せている。

これに伴い、ソフトウェアの多様性、複雑性、規模は飛躍的に増大し続け、国際的な競争の激化が、この傾向に、ますます拍車をかけています。ソフトウェアの「価値」を高めるには、絶え間ないプロセス改善を通じて挑戦していく以外に道はありません。

いま企業は新型コロナによって、在宅勤務や遠隔教育など「オンライン・シフト」が強いられることになった。リアルでやっていたことを一時的にオンライン化してしのぐのではなく、「オンラインを前提とした価値設計」が必要になった。企業の生産性向上や高収益化、サイバーシステムやデジタルツールを取り込む良い機会になる。

これら「変化」への対応として、“オンライン化した社会”のパラダイムシフトにより、IoT、デジタルビジネス、ビッグデータ、人工知能、FinTech、SNSやスマートホンを中心とした次世代エコシステムなど「新たな価値」を生み出すサービスへの対応があげられる。それらに派生して基幹系システムの再構築やアジャイル型開発の生産技術革新の取組み、オペレーション業務へのロボット導入などに拡大している。

IoTやデジタルトランスフォーメーション(DX)に取り組むにはプロセス改善と同様に、ビジネスモデル、トップのコミットメント、チーム作り、大量・多種類・多頻度でデータを収集・分析し、高速でPDCAを回し、スケールアップしていく取組みになる。

プロセス改善に立ち向かう私たちは、ビジネスモデルの移り変わりや技術の展望を意識し、これまでのプロセス改善活動で得られた多様な事例や知見を体系化・活用し、各ステークホルダーと繋がりあい、価値を共創して「次の変化」へ対応できると考えている。

JASPIC では、次の10年を見据え、ビジョンに向かって①知識の活用、②価値の訴求・探究、③専門職として確立、④新分野など貢献領域の拡大をすすめている。

今回の SPI Japan は、昨年に続き、オンライン会議となり、発表や討論において、「いかす」～新たな時代に“カイゼン”の力を～と、「次の変化」への対応に向けてさまざまな発見、価値の探求がなされることを期待します。

日本 SPI コンソーシアム 理事長

赤坂 幸彦(NTT データシステム技術株式会社)

SPI Japan 2021 開催にあたって

ソフトウェアプロセス改善カンファレンス(SPI Japan 2021)へご参加いただきありがとうございます。

SPI Japan は、今年で 19 回目となりました。新型コロナウイルスにも負けずに開催することができるのも、本カンファレンスにご参加、ご支援いただいたすべてのみなさまのおかげと感謝申し上げます。

今年の夏は、東京オリンピック、パラリンピックが開催され、アスリートの活躍に一喜一憂し、その姿に感動を覚えた方も多かったと思います。この状況下でパフォーマンスを出せるように調整してきた選手はもちろん、運営スタッフやボランティアの活躍も注目された大会でした。

開催の延期、コロナ対策などかつて経験したことがない厳しい環境、要求の中での開催でした。運営スタッフはそれぞれの経験を活かしつつも多くの知識や意見を取り入れながら、試行錯誤して新しい大会運営を作り上げたのだと思います。その姿は我々の活動にも通ずるものがあるでしょう。

我々を取り巻く環境も、DX に代表されるような変革やコロナ後のニューノーマルへの急激な変化が求められています。今まで通りで通用しないところは、新しい知識を取り入れたり、人との交流の中でノウハウを吸収したり、皆さんが培ってきたカイゼンマインドをいかして、立ち向かっていく必要があります。

今年の SPI Japan のテーマは、「いかす」～新たな時代に“カイゼン”の力を～ です。

SPI Japan 2021 では、みなさまの「いかす」につながる場を提供したいと考え、オンライン開催では初めてとなる企画を盛り込んでプログラムを構成しました。

参加されるみなさまが、「SPI Japan に期待することは何だろう?」と考え、前回のオンライン開催では実現が難しかった、交流の機会(みんなでディスカッション、コミュニケーション広場)やワークショップ(トーク&納得セッション)など、みなさまが参加し楽しんでいただけるプログラムをご用意しました。

みなさま一人一人がご自身の「いかす」を見つけていただけると幸いです。

最後になりますが、一般発表に応募していただいたみなさま、ご参加いただいたみなさま、各企画セッションにご協力いただいたみなさまに支えられて、本カンファレンスは成り立っています。スタッフ一同心よりお礼申し上げます。

また、JASPIC 会員企業のみなさま、ご後援を賜った団体のみなさま、本カンファレンスの開催にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

2021 年 10 月

SPI Japan 2021	実行委員長	竹内 朝一
SPI Japan 2021	副実行委員長	武田 治紀
SPI Japan 2021	プログラム委員長	池田 浩明、金光 暁、清水 崇司

プログラム

《1日目～3日目》 10月6日(水)～10月8日(金) (1/5)

コミュニケーション広場【oVice】開催期間中、いつでもご利用可能です

《1日目》 10月6日(水)

時間	内容
	プログラム開始時刻の10分前から接続開始
	オープニング・基調講演【Zoom】
13:00 ～ 15:00	デジタル時代に求められる“カイゼン”とは 株式会社クレディセゾン 取締役兼専務執行役員 CTO 兼 CIO 小野 和俊 氏
15:00 ～ 15:30	休憩
	みんなでディスカッション【oVice】
15:30 ～ 17:30	JASPIC20周年にちなんで 進行 : JASPIC 20周年チーム

《2日目》 10月7日(水) (2/5)

時間	内容	
	プログラム開始時刻の10分前から接続開始	
10:00 ～ 11:30	一般発表（セッション1A）【Zoom】 プロジェクトマネジメント	一般発表（セッション1B）【Zoom】 組織変革・人材育成
	プロジェクト健康診断 守都 智春 (TIS 株式会社)	事業変革を見据えた、品質マネジメントシステムの継続的革新 池田 敏昭 (TIS 株式会社)
	組織展開されたEVMを現場活用して分かった課題と改善 田崎 功一 (パナソニック アドバンステクノロジー株式会社)	開発実習を含む集合研修のe-Learning化と成果 岡本 優奈 (住友電気情報システム株式会社)
	組織を加速させるマネジメントとリーダーシップ 小坂 淳貴 (クリエーションライン株式会社)	【仮説】ソフトウェア・プロセスの質はメンタルモデルにあり 中村 伸裕 (住友電気情報システム株式会社)
11:30 ～ 12:00	発表者交流（セッション1A）【Zoom】	発表者交流（セッション1B）【Zoom】
12:00 ～ 13:00	休憩	

《2日目》 10月7日(木) (3/5)

時間	内容	
13:00 ～ 14:30	一般発表（セッション 2A）【Zoom】 プロセス改善	一般発表（セッション 2B）【Zoom】 アジャイル
	スーパーマン vs 天才 蔡 光浩 (C&BIS 株式会社)	無対面から始めるアジャイル開発 大脇 斉 (Ridgelinez 株式会社)
	事業活動と統合した品質マネジメントシステム 確立に向けて 相澤 武 (株式会社インテック)	品質管理部門での SAFe (Scaled Agile Framework) 導入事例 利根 章 (TIS 株式会社)
	東芝グループにおける SPI 活動 20 年史と今 後の展望について 田中 武志 (株式会社 東芝)	ニューノーマルのカイゼン実践！大規模プロ ジェクトの分散開発 十倉 諒也 (富士通株式会社)
14:30 ～ 15:00	発表者交流（セッション 2A）【Zoom】	発表者交流（セッション 2B）【Zoom】
15:00 ～ 15:30	休憩	

《2日目》 10月7日(木) (4/5)

時間	内容
	一般発表 (セッション 3) 【Zoom】 エンジニアリング改善
	モデリング手法導入によるソフトウェア設計力強化策の社内普及展開 城所 正博 (パナソニック株式会社)
15:30 ～ 17:00	IT 企業における DX へ向けた取り組み 野尻 優輝 (住友電工情報システム株式会社)
	CASE 時代に求められるデザイン DX アプローチ 山路 厚 (株式会社デンソークリエイト)
17:00 ～ 17:30	発表者交流 (セッション 3) 【Zoom】

《3日目》 10月8日(金) (5/5)

時間	内容		
	プログラム開始時刻の10分前から接続開始		
	トーク&納得セッション (テーマ①)【Zoom】	トーク&納得セッション (テーマ②)【Zoom】	トーク&納得セッション (テーマ③)【Zoom】
10:00 ～ 12:00	ソシオドラマで体感する SPI 人材育成ワークショップ 進行 : JASPIC 人材育成分 科会	アジャイル実践ノウハウの抽 出 進行 : JASPIC アジャイル 分科会	JASPIC 分科会活動紹介セッ ション 進行 : JASPIC 各分科会
12:00 ～ 13:30	休憩		
	パネルディスカッション・クロージング【Zoom】		
13:30 ～ 16:00	<p>変えるもの/変えてはいけないもの ～自社と JASPIC と産業界の 20 年の改善活動を振り返って～</p> <p>パネラー(五十音順、敬称略)</p> <p>オムロン株式会社 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー技術開発本部第3技術部 技術専門職 赤松 康至</p> <p>株式会社エーアンドエス・コンサルティング 代表取締役 安倍 秀二</p> <p>株式会社 NTT データ 技術革新統括本部 テクノロジストラテジスト 端山 毅</p> <p>富士通株式会社 和田 憲明</p> <p>司会 JASPIC 運営委員長、株式会社日立ソリューションズ セキュリティソリューション本部 セキュリティコンサルティング部 遠藤 潔</p>		

発表資料掲載について

一般発表セッションの発表資料は、会期終了後に日本 SPI コンソーシアムの Web サイトで一般公開します。(掲載許可が得られなかった資料は除きます)

◀日本 SPI コンソーシアム Web サイト▶ <http://www.jaspic.org/>

接続に関するご連絡

- オンラインツールとして Zoom を利用します。一部のプログラムでは oVice(オヴィス) を利用します。
- Zoom は PC、タブレット、スマートフォンでのご参加が可能です。oVice は PC の利用を推奨します。
 - 1つのお申込みで視聴できるのは 1 名となります。複数名での視聴はご遠慮ください。なお、マイクと視聴デバイスを分けるなど、複数デバイスで同時にアクセスする必要がある場合は、表示する名前を同一表記にしてください。
- Zoom は PC の Web ブラウザから利用することでプラグインやソフトウェアをダウンロードせずに動画視聴が可能です。ただし対応する Web ブラウザは限られますので Zoom 社の Web サイト等をご確認ください。
- oVice の概要、推奨利用環境および接続方法については、ポータルサイトにある「コミュニケーション広場の歩き方」をご確認ください。
- 接続および視聴に関わる技術的なサポートは提供いたしません。

オンラインイベント参加にあたってのお願い

- 周囲の騒音に配慮されるなど参加いただく環境にご配慮ください。
- 通信環境の良いところでご参加ください。
- 参加者側の通信環境などの不備により参加が困難となった場合、返金はございません。
- 以下の行為を禁止いたします。皆様のご協力をお願いします。
 - 著作権、商標権、プライバシー権、氏名権、肖像権、名誉等の他人の権利を侵害する行為
 - URL、ID、パスワードの第三者への譲渡、貸与
 - 登録者以外の第三者が参加される行為
 - 録音、録画、画面のスクリーンショット撮影などの行為
 - 動画、画像の SNS などへの掲載(発見した場合は削除要求します)
 - オンライン上で発生した不具合を利用した不適切な行為
 - 主催者の承諾なく、営利を目的とした情報提供等の行為
 - イベントに関係のない内容のチャット機能への書き込み
 - その他、主催者が不適切/不相当であると判断した行為

なお、異常な接続を見つけた場合、予告なく切断することがあります。

基調講演

デジタル時代に求められる“カイゼン”とは

デジタルの時代が本格的に到来し、IT の役割はかつての「業務の効率化のための IT」から「事業競争力強化のための IT」へと大きく変遷してきています。デジタル時代に求められる“カイゼン”とはどのようなものでしょうか。ベンチャー企業の経営と、歴史ある日本企業の経営との双方に携わってくる中で見えてきた現代に求められる“カイゼン”がどのようなものなのか、事例を交えながら紹介していきます。

講演者

小野 和俊(おの かずとし) 氏

株式会社クレディセゾン

取締役兼専務執行役員 CTO 兼 CIO



プロフィール

1999 年サン・マイクロシステムズ株式会社に入社。米国本社での開発などを経て 2000 年に株式会社アプレッソを起業、データ連携ミドルウェア DataSpider を開発し、SOFTIC より年間最優秀ソフトウェア賞を受賞。2013 年にセゾン情報システムズとアプレッソが資本業務提携。2019 年に株式会社クレディセゾンへ入社。取締役 CTO などを経て、2021 年 3 月より現職。

著書:

『その仕事、全部やめてみよう - 1%の本質をつかむ「シンプルな考え方」』(ダイヤモンド社)

みんなでディスカッション

JASPIC20 周年にちなんで

進行: JASPIC 20 周年チーム

ご参加者みなさまの交流を深めるために、オンラインコミュニケーションツール「oVice(オヴィス)」を利用した「コミュニケーション広場」内でワールドカフェ方式の意見交換会を行います。

JASPIC20 周年にちなみ、創立当初の状況や目指したのから最近の DX や with コロナでのプロセス改善など、さまざまなトピックをお題として提供します。みなさまからの JASPIC や SPI Japan への期待、プロセス改善に関するご意見も大歓迎です。

3 日間の SPI Japan ご参加を有意義なものとし、よりたくさんのお土産をお持ち帰りいただけるよう、参加者同士のコミュニケーションの場としてもご活用いただけます。初めての方もお気軽にご参加ください。

〈ワールドカフェとは?〉

「知識や知恵は、機能的な会議の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことが出来る『カフェ』のような空間でこそ創発される」という考え方に基づいた話し合いの形です。

トーク&納得セッション

聴くだけの一方通行ではなく、双方向の会話やワークショップで「納得感」をお持ち帰りいただく 2 つのセッションに加え、JASPIC20 周年にちなみ、JASPIC の主要な活動の一つである「分科会」の研究内容や成果についてご紹介するセッションをご用意しました。ご興味のあるセッションを選んでご参加ください。

テーマ①: ソシオドラマで体感する SPI 人材育成ワークショップ

進行: JASPIC 人材育成分科会

【概要】

本ワークショップは全く新しい体験型の人材育成ワークショップです。我々は普段、様々な感情を表現し、表現された(あるいはされない)現場に生きています。ソシオドラマは、「感情」を扱う心理劇です。架空の開発現場ドラマに出演、もしくは観覧することで、安全かつ客観的に、そこにいる人たちの「感情」や「行動の理由」の当事者になることができます。まさに「事件は会議室で起こってるんじゃない。現場なんだ！」なのです。

SPI 人材育成の新しい可能性と一緒に体感してみませんか？

テーマ②:アジャイル実践ノウハウの抽出

進行: JASPIC アジャイル分科会

【概要】

本ワークショップでは、アジャイル実践事例からノウハウを抽出し、他の参加者との議論を通じて更に深掘りします。抽出したノウハウと深掘りの内容は JASPIC でご用意したテンプレート上に表現していきます。プロセス改善の専門家がノウハウ抽出をファシリテートしますので、ご安心を。当日アジャイル実践事例を提供していただける人は、ぜひご参加ください。その様子を観察したい人も、ぜひご参加ください。更には、過去に SPI Japan でアジャイル実践事例を発表した人をお呼びして、その後の実践状況を聞いて深掘りすることも企画中です。お楽しみに！

テーマ③: JASPIC 分科会活動紹介セッション

進行: JASPIC 各分科会

【概要】

JASPIC のなかで活動している分科会 (<http://www.jaspic.org/activities/sig/>) のなかから5つの分科会の活動テーマの内容や活動成果について分科会メンバが直接ご紹介するショートトークセッションです。

- SPI 事例研究分科会 「SPI 事例発表を通じた知識交流の勧め ～SJ 発表概要(テンプレート)の読み方・書き方～」
- コア・コンピテント・チーム研究会 「学習するエンジニア ― PSP と CoP ―」
- 関西分科会(SPI 理想可視化分科会) 「ミニ KS 分科会」
- プロセス改善戦略分科会 「プロセス改善の戦略 ～あなたの SPI 成功率を高めます～」
- IDEAL モデル実践研究分科会 「IDEAL 分科会紹介」

本セッションを通して JASPIC の活動について知っていただくことで今後の活動成果の活用や交流が進む良い機会になることを期待しています。

パネルディスカッション

変えるもの/変えてはいけないもの

～自社と JASPIC と産業界の 20 年の改善活動を振り返って～

過去から JASPIC 会員企業で社内外の改善活動に携わってきたレジェンドを招いてパネル討論を実施します。

自社や顧客企業の改善活動を推進したパネラーの経験から振り返って得たものを以下の観点より紹介いただきます。

- 1) 変わったこと/変わらなかったことは何か？ それは成功か、それとも失敗か？
- 2) これから変えたいものは何か？
- 3) 変革に役立つ能力とは何だろうか？ 我々はそれを持っているだろうか、足りないものは何か？

パネラーの皆様からは、それぞれ、CMMI+PMBOK、Agile+DX、A-SPICE+Safety、派生開発+プロダクトラインといった切り口からのお話も伺うことができます。司会/パネラーが上記の内容に対し質問して意見交換/深掘りを行い、DX 時代に役立つ知見を引き出したいと考えます。

パネリスト

赤松 康至(あかまつ やすゆき) 氏

オムロン株式会社

インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー技術開発本部第 3 技術部 技術専門職



プロフィール

オムロン株式会社において約 20 年 全社ソフトウェアプロセス改善およびソフトウェアプロダクトラインを推進。現在はカンパニー横断のグローバル技術ナレッジ共有システム構築・運用。

CMMI Lead Appraiser(2004-2018), CMMI Instructor(2006-2018)

JASPIC 研究員(2005-2018)

安倍 秀二(あべ しゅうじ) 氏

株式会社エーアンドエス・コンサルティング

代表取締役



プロフィール

1982年 松下電器産業(株)入社。民生品の研究開発、製品化を担当
2002年 SW-CMM を用いた組織のプロセス改善を担当
2005年 CMMI を用いた全社のプロセス改善を推進
2007年 車載開発組織の SEPG を担当
2008年 Automotive SPICE を用いたプロセス改善を開始
2009年 機能安全規格 ISO 26262 に会う
以来、機能安全 Automotive SPICE について
国内外の関連組織のプロセス構築、教育、アセスメントを実施
2018年 定年退職し「エーアンドエスコンサルティング」を立ち上げ、
機能安全・Automotive SPICE・システム設計に関連する
プロセス構築・教育・導入支援・アセスメントなどの支援を開始
2020年 法人化「株式会社エーアンドエス・コンサルティング」
日本 SPI コンソーシアム(JASPIC)研究員、日本 SPICE ネットワーク
(NSPICE)運営委員。その他、ソフトウェア開発力強化、機能安全規格
関連の審議などに多数参画。Intacs Certified Automotive SPICE
Principal Assessor。

端山 毅(はやま たけし) 氏

株式会社 NTT データ

技術革新統括本部 テクノロジストラテジスト

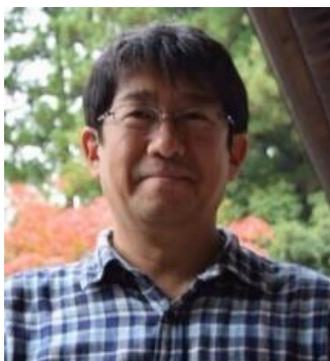


プロフィール

株式会社 NTT データにおいて全社 QMS の構築運用、CMMI 適用と
プロセス改善施策、PM 育成/支援施策、定量データ分析などを推進。
同社品質保証部長(2010-2015年)。
株式会社 NTT データユニバーシティ社長(2015-2017年)。
JASPIC 理事、JISA デジタル技術部会長、PMI 日本支部副会長、
東京工業大学情報理工学院非常勤講師、博士(工学)、PMP。

和田 憲明(わだ のりあき) 氏

富士通株式会社



プロフィール

2006年に社内でアジャイルコミュニティを作り普及活動を実施。2011年から現在まで技術支援部門でアジャイル支援活動に従事している。また、社外の様々なアジャイルコミュニティにも参加し、日本でのアジャイルの潮流を長年肌で感じてきた。趣味はジャグリングの面白さを多くの人に伝えること。アジャイルとジャグリングには共通点が多いと思っている。「ジャグリングは見るよりやる方が100倍面白いですよ」

〈主な活動〉

- ・情報処理推進機構(IPA)アジャイル WG メンバ(2017年～現在)
- ・アジャイルジャパン実行委員(2010年～2020年、2015～2017年は実行委員長)
- ・JASPIC アジャイル分科会(2016年～現在)

司会

遠藤 潔(えんどう きよし) 氏

株式会社日立ソリューションズ

セキュリティソリューション本部 セキュリティコンサルティング部



プロフィール

日立パソコン用LSIの設計ソフト開発に従事、開発リーダー、マネージャーを経験。組込みソフト開発、自社 CMMI アセッサを経て、コンサルティング業務に従事。組込み系(ストレージ機器、通信機器、家電品、半導体、事務機器、自動車、鉄道、車載機器、医療機器、航空/宇宙等の開発/製造メーカー)、エンタプライズ系(生保、損保、銀行、SIer等)のプロセス改善コンサルティング(18年間)。

ECQA 認定 SPI マネージャー、JASPIC 研究員(2005～)、同運営委員長(2018～)

コミュニケーション広場

SPI Japan 2021 の開催期間中、オンラインコミュニケーションツール「oVice(オヴィス)」を使用して発表者と参加者、参加者同士で気軽に意見交換や雑談ができる場を提供します。セッションの発表者に直接話を聞いてみたり、分科会の発表展示を見たり、プロセス改善の歩みや未来に繋がる様々な話題について他の参加者と意見交換できる良い機会ですので、是非ご利用ください。

<oVice(オヴィス)とは>

- 「oVice(オヴィス)」は「オンラインでのコミュニケーションを最大化」することを目指して開発されたバーチャル空間。
- アバターを使ってオンライン画面上を自由に動きまわり、自由に話しかけることができる。自分のアバターに近い声は大きく、遠くの声は小さく聞こえる仕組み。
- オンラインでは難しかった雑談やシームレスな移動、館内アナウンスなどが可能。
- ビデオ会議ツールのように、配信される映像や音声を一方的に聞くのではなく、その場にいる人がそれぞれに必要な人と会話をしながら時間を過ごすことが可能。

JASPIC とは

日本 SPI コンソーシアム(JASPIC)は、21 世紀の世界で利用されるさまざまな社会システム、産業システムや各種の工業製品などの開発の中核をなすソフトウェアプロセスの改善(以下 SPI といいます)および SPI に伴うプロセス評価(以下 SPA といいます)に関する研究、技術移転、普及活動、国際交流などを行うことを目的に設立された非営利団体です。

- SPI (Software Process Improvement)
- SPA (Software Process Assessment)

1. 活動の趣旨

JASPIC は、地道な改善活動に日夜励んでいる技術者が社会組織の壁¹を越えてプロセス改善に関して各自の経験や技術を交流し、改善技術を高める場を提供する非営利の団体です。

2. 活動の目的

JASPIC は、以下を行なうことを目的とします。

- (1) SPI および SPA に関して会員相互間の技術的・人的交流を図り、会員各自の技術力向上と技術移転の促進を図ります
- (2) SPI および SPA について、技術/方法論/モデルの研究を行ないます
- (3) 我が国における SPI および SPA に関する社会的認識と技術水準の向上を図るため、上記の活動の成果を活かして、SPI および SPA に関する啓発・普及活動を行ないます
- (4) SPI および SPA にかかわるグローバルスタンダード確立に向けた国際貢献や、世界各国におけるカンファレンス等を通じた技術者の国際交流を行ないます

3. 活動の概要

JASPIC は、上記の目的を達成するために、次の活動を行なっています。

- (1) 会員相互間の技術的・人的交流のための研究会、講演会、セミナー等の開催
- (2) 技術情報の収集及び配布
- (3) SPI および SPA に関する啓発・普及活動となる公開セミナー、ワークショップ、シンポジウム、SPI カンファレンス等の開催
- (4) 本会が目的を遂行するために必要な、SPI あるいはソフトウェアに関する各種団体との交流や支援
- (5) CMMI の日本語化に対する支援
- (6) SPI 及び SPA 関連文書の発行

¹ 社会組織の壁: 英語では、“Social/Organizational Barrier”。会社も含めて、学会、業界団体、政府関係機関、そうした「社会組織の壁」を意味しています。

4. JASPIC の会員と運営体制

JASPIC は、15 社の法人会員および個人の会員から構成され、それぞれの法人から参画している研究員や個人の会員は約 100 名となっています。JASPIC が提供するさまざまな活動やサービスは、研究員を中心に推進しています。以下に会員の一覧と、運営体制を示します。なお個人会員氏名は公開していません。

■JASPIC 会員(2021 年 8 月現在)

【法人会員】

株式会社インテック	株式会社SRA
NEC ソリューションイノベータ株式会社	株式会社NTTデータ
キオクシア株式会社	キヤノンITソリューションズ株式会社
株式会社シーエーシー	ソニー株式会社
TIS株式会社	株式会社東芝
パナソニック株式会社	株式会社日立製作所
株式会社日立ソリューションズ	富士通株式会社
他 1 社	

【名誉会員】

岸田 孝一	松原 友夫
-------	-------

■JASPIC 運営体制(2021 年 8 月現在)

【役員】

理事長	赤坂 幸彦(NTTデータシステム技術株式会社)	
理事	岡野 信保(株式会社日立製作所)	佐藤 弘(NEC ソリューションイノベータ株式会社)
	島田 さつき(富士通クオリティラボ株式会社)	中川 雅通(パナソニック株式会社)
		端山 毅(株式会社NTTデータ)
外部理事	近藤 康二	野中 誠(東洋大学)
会計監事	池田 浩明(株式会社インテック)	
アドバイザ	岡田 公治(東京都市大学)	

【運営委員会】

委員長	遠藤 潔(株式会社日立ソリューションズ)	
副委員長	後藤 徳彦(NEC ソリューションイノベータ株式会社)	小松澤 敦(株式会社日立ドキュメントソリューションズ)
	佐藤 慎一(株式会社NTTデータ)	菅原 広行(ソニー株式会社)
	田村 朱麗(株式会社東芝)	水田 恵子(パナソニック株式会社)

5. JASPIC 活動概要

JASPIC では、以下の 3 つの活動を中心に活動をしています。

(1) 例会、分科会、合宿

会員間の情報共有、議論の場として活用します

- 【例会】

2ヶ月に一回、午後半日で開催します。講演や会員企業からの事例発表が中心です。

- 【分科会】

あるテーマに対して、興味を持つメンバが集まり、一年間にわたって深く議論し、成果物を残します。ここで作成した成果物は、JASPIC 会員企業のメンバが活用できるように提供されます。

- 【合宿】

年一回開催(5~6月に開催、2日間)。特定のテーマに関する議論や各社の SPI 活動事例を紹介する場として活用しています。

(2) イベント

- SPI に関する実践事例の共有、先端技術の導入および SPI の普及(SPI に関する認知度を高める)のために開催しています。

SPI Japan(秋)/JASPIC トワイライトフォーラム(年 4 回程度夜間開催)
--

※JASPIC 会員は、無料あるいは会員価格で参加できます。

- その他

・社外団体との交流および、国際会議などへの派遣なども実施 ・SPI 以外の幅広い情報/海外の最新動向が入手可能
--

(3) セミナー、トレーニング

JASPIC 会員のスキルアップを目指した活動(海外、国内の SPI コンサルタントとの契約を含む)です。JASPIC 会員の要望に基づいて計画され実施されます。

6. JASPIC への参加方法

(1) 入会について

以下のサイトを参照してください。

http://www.jaspic.org/organization/join_us/

(2) お問い合わせ

以下のサイトに載っている連絡先までご連絡ください

<http://www.jaspic.org/contact/>

カンファレンススタッフ

●SPI Japan 2021 実行委員長

竹内 朝一(東芝デベロップメントエンジニアリング)

●SPI Japan 2021 副実行委員長

武田 治紀(日立製作所)

●SPI Japan 2021 プログラム委員長

池田 浩明(インテック)

金光 暁(富士通)

清水 崇司(ニコン)

●SPI Japan 2021 プログラム委員

羽原 寿和(東芝)

泉 友弘(NTT データ)

細美 彰宏(日立ソリューションズ)

千田 哲義(NEC ソリューションイノベータ)

豆腐谷 晶憲(SRA)

藤縄 幾子(パナソニック)

若林 正宏(ニコンシステム)

今井 真紀(ニコンシステム)

村上 淳(NEC ソリューションイノベータ)

遠藤 潔(日立ソリューションズ)

高瀬 浩(NTT データ)

高田 奈緒貴(TIS)

飛田 正宏(キオクシア)

水田 恵子(パナソニック)

山田 大介(キヤノン IT ソリューションズ)

両角 圭史(ソニー)

植村 貴美(個人会員)

久和 恭子(パナソニック)

丹下 浩一(NEC ソリューションイノベータ)

野澤 秀樹(シーエーシー)

榎井 映里(キヤノン IT ソリューションズ)

●SPI Japan 2021 SJ サポーター

阿南 佳之(個人会員)

小笠原 秀人(個人会員)

緒方 勝(東芝インフラシステムズ)

岸 利至(キオクシア)

黒川 俊雄(シーエーシー)

菅原 広行(ソニーセミコンダクタソリューションズ)

丹羽 愛一郎(個人会員)

松浦 豪一(個人会員)

和田 憲明(富士通)

●SPI Japan 2021 事務局

河野 明子(SRA)

鶴田 範子(SRA)

乗松 聡(乗松プロセス工房)

●JASPIC セミナー推進チーム/外部広報推進チーム

小松澤 敦(日立ドキュメントソリューションズ)

中山 高宏(ソニー)

中森 勝(パナソニック)

CMMI は、CMMI Institute により米国特許商標庁に登録されています。

SEPG は、カーネギーメロン大学の商標です。

Automotive SPICE は、Verband der Automobilindustrie e.V. (VDA)の登録商標です。

PMBOK は、米国 Project Management Institute, Inc.の米国その他の国における登録商標です。